デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2019年（令和元年）12月17日（火曜日）（21）

チーノはちのへの外壁に貼られたイラスト＝13日、八戸市

いつもの街に「ラクガキ」

八工大4年 寺井さん

突如アート 驚き演出

非日常的空間も創作

「ラクガキ」で街に活気を―。八戸工業大感性デザイン学部4年の寺井隆太朗さん(21)が、八戸市北白山台5丁目の八戸ニュータウンショッピングセンター内ローズガーデンと同市十三日町のチーノはちのへの壁面に、自身が描いたペイントなどの作品を展示している。誰もが自由に行き来するいつもの空間に突如アートを出現させることで意外性や驚きを創出するのが狙い。地域住民の交流のきっかけとなり、街に活気とユーモアを生み出したい考えだ。

（三浦千尋）

寺井さんは現在、「都市のラクガキ」をテーマに卒業研究に取り組んでおり、ルールを守りながら公共の場に個人の表現活動を取り入れることの可能性を探っている。

「今の街中の公共空間は、表現活動をする上では不自由さを感じている」と寺井さん。街を「住民全員のための公的な空間で、伸び伸びと生活する空間」と捉え、地元企業や団体の協力を得て表現活動をすることで、街の活性化につなげようと街中でのアートを発想した。

寺井さんは、自宅近くのローズガーデンを展示場所にしようと、同ガーデンをボランティアで管理している同市の就労支援事業所「八戸グリーンプランツ」の工藤和子所長に相談。工藤所長の理解と協力で展示が実現した。

ガーデン内のあずまやには、寺井さんが子どもの自由さやわんぱくさをイメージして制作したオリジナルキャラクターの絵や立体作品を展示。見る人の想像をかき立てる非日常的な空間を演出した。工藤所長は「若い人たちがこういう活動をしてくれるのがうれしい。八戸を活発にしてもらえれば」と期待を込める。

チーノはちのへでは、外壁や内壁など数カ所に原状回復可能な特殊なのりで、キャラクターのイラストを貼り付けた。街中に突如出現した作品への反響は大きく、立ち止まって見入る人や、写真を撮って会員制交流サイト（SNS）に投稿する人も多いという。

ビルを運営する八戸スカイビル（原隆男代表）は、昨年度から七夕飾りのデザインを同大に頼んでいる縁もあり、寺井さんの取り組みに協力。管理担当者は「チーノを発表の場にしてくれたことに感謝。機会があればまた協力したい」と歓迎する。

寺井さんは卒業後、東京の空間デザイン会社への就職が決まっているが、「今後も八戸での展示に挑戦したい。若者が主体となっていろんな活動ができる街になってほしい」と願っている。

作品はローズガーデンでは年内いっぱい、チーノはちのへでは来年2月ごろまで展示する予定。

「アートで街に活気を生み出したい」と話す寺井隆太朗さん＝2日、八戸ニュータウンショッピングセンター内のローズガーデン